

Helicobacter pylori (以下Hp) 未感染と除菌後時代の胃癌発見に役立つ内視鏡診断の構築研究会 研究成果報告

会期：2023年5月26日（金）

会場：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール

① 組織構成

代表世話人	藤崎順子	がん研有明病院 消化器内科
顧問	上村直実	国立国際研究センター 国府台病院
世話人	阿部清一郎	国立がん研究センター 中央病院 内視鏡科
	小田一郎	国立がん研究センター 中央病院 内視鏡科
	磯本一	鳥取大学医学部 消化器腎臓内科
	伊藤公訓	広島大学 総合内科 総合診療科
	岩泉守也	浜松医科大学 臨床検査医学
	牛島和俊	国立がん研究センター エピゲノム解析 (現星薬科大学)
	上山浩也	順天堂大学 消化器内科
	大圃研	NTT関東中央病院
	松橋信行	NTT関東中央病院
	河合隆	東京医科大学 内視鏡センター
	河内洋	がん研有明病院 がん研究所病理部
	加藤元嗣	国立病院機構 函館病院
	児島雅明	大分大学 福祉健康科学科
	村上和成	大分大学 消化器内科
	並河健	がん研有明病院 消化器内科
	中野薫	がん研有明病院 がん研究所病理部
	宮本心一	国立病院機構 京都医療センター
	吉村大輔	済生会福岡総合病院 消化器内科 (現国立病院機構九州医療センター 消化器内科)
	八尾隆史	順天堂大学 人体病理病態学
	杉本光繁	東京医科大学 内視鏡センター
	布袋屋修	虎の門病院 消化器内科
	小林正明	新潟県立がんセンター 消化器内科
	八木一芳	新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院
	八尾建史	福岡大学 筑紫病院 内視鏡部
	柴垣広一郎	島根大学医学部付属病院 光学診療部
	佐々木亜希子	湘南鎌倉総合病院 消化器内科

② 研究成果報告

日本消化器内視鏡学会附置研究会*Helicobacter pylori*未感染と除菌後時代の胃癌発見に役立つ内視鏡診断の構築研究会を2019年～21年、3回開催した。ピロリ菌未感染背景と除菌後に発見される浸潤癌の解析を行い胃癌死亡を撲滅する目的で行った。

未感染の定義を次のように決め症例登録を行った。

感染診断 除菌歴なし

血清*Hp*抗体を含む感染検査（尿素呼気試験、便中抗原、尿中抗体、迅速ウレアーゼテスト、培養、検鏡）の2つ以上の総てが陰性*

*ただし組織診断が確実であれば感染検査は1項目でも許容できる

内視鏡診断 粘膜萎縮を認めず、胃角小彎のRAC像¹⁾はじめ*Hp*未感染の特徴を呈し、かつ既感染・現感染の所見を認めない

組織診断 組織学的に活動性胃炎を認めず、かつ萎縮・腸上皮化生・リンパ濾胞を認めない

これらの基準に当てはまった症例のメチル化を解析し（世話人、牛島俊和先生協力）基準の妥当性について検討していく。

希少癌のためプロトコールを作成し、各世話人施設のIRB通過後に症例登録を行った。未感染浸潤胃癌29例。除菌後浸潤胃癌276例が登録された。

これらの解析を第3回の附置研究会で行った。未感染胃癌の遡及的画像追跡4例においては3-4年に1回の検査で粘膜内癌の発見が可能であった。除菌後胃癌については10年以降発見の75例の分析で男性が有意に多く分化型優位63%早期胃癌67%、であった。登録症例の解析は今後も進めていく。

今回の集積症例の母集団である代表世話人施設は癌紹介施設が多く、今後健診施設に世話人として協力いただき、関連研究会として本研究は継続していく予定である。

1) Yagi K et al. J Gastroenterol Hepatol 2002